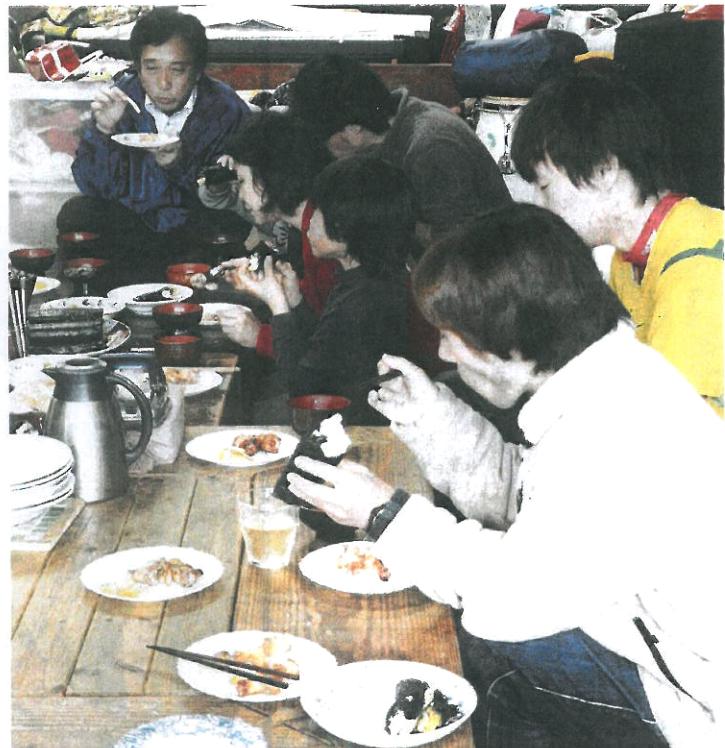


不登校「居場所」利用2割



食卓を囲み、昼食を取る子供と
スタッフたち（川崎市高津区の
「フリースペースえん」で）

012年度）にとどまっていることが、市の調査でわかった。
「子供たちに適したサービスを提供できていないからでは」と
懸念する市は新年度から、市教育委員会と定期的に情報交換し、
支援内容を見直していく方針だ。

不登校となっている川崎市の児童生徒のうち、市の適応指導
教室や市内の民間フリースペースなどの利用者は23・5%（2
012年度）にとどまっていることが、市の調査でわかった。
「子供たちに適したサービスを提供できていないからでは」と
懸念する市は新年度から、市教育委員会と定期的に情報交換し、
支援内容を見直していく方針だ。

（岩島佑希）

「いただきまーす」

節分の日の2月3日、川

崎市高津区の「フリースペ
ースえん」の食卓で、子供
たちとスタッフが恵方巻き
にかぶりついた。スタッフ
から「しゃべると運が逃げ
るよ」と言われたが、中学
3年の女子生徒（14）は「お

いい」と満面の笑みで声
を上げた。生徒はここで受
ける場所です」と楽しそ

ターやも演奏できる。安心で
はサッカーも出来るし、ギ

強調する。えんには成人も
未成年の人がいるし、チャレ
ンジする機会と安心して失
敗できる環境がある。自信

回復につながる」と意義を

横浜、相模原でも低迷

利用率の低迷は横浜市や
相模原市でも同様だ。両市
とも民間のフリースペース
などに通う児童生徒数を把

握していないが、市が設置
する適応指導教室などの利
用率は横浜市が12・2%、
相模原市は13・6%にとど
まっている。横浜市教委人
権教育・児童生徒課は「民
間施設を紹介する機会を増
やし、子供たちのニーズに
合った利用ができるよう支
援していく」としている。

ほかにも、保護者が同じ悩
みを共有できる場を充実さ
せ、まずは親に元気を取り戻
してもらう取り組みを充
実させていく方針だ。

相模原市には市の適応指
導教室などのほか、4か所
のフリースペースがある。
市立青少年相談センターは
「教室の活動内容の充実を
図り、利用率を上げたい」
としている。

市、支援内容見直しへ

勉強に励んでいる。「学

校には通えていないけど、

ここにいると元気が出る」

と感じるところもあるが、希望

者は全員受け入れていると

いう。運営するNPO法人「フリースペース

たまりば」理事長の西野博
之さん（53）は「自分と同じ

状況の人があるし、チャレ
ンジする機会と安心して失
敗できる環境がある。自信

をもつた」という。